



2018年11月20日

## 「プラスチック資源循環アクション宣言」 ～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

株式会社セコマ

セイコーマートでは、プラスチック製品の3Rの取組みとして以下を行っています。

● セイコーマート店舗にて、店内放送でのレジ袋削減の呼びかけ

【セイコーマート店内放送内容】

セイコーマートからのお知らせです。

お買い物をする際に、レジ袋がご不要の場合は、お会計の際にお申し付け下さい。  
限りある資源を大切に、皆様のご協力をお願い申し上げます。

- 放送地区：北海道、茨城県、埼玉県
- 放送回数：毎時2回

● セイコーマート店舗にて、たまごパックの回収

セイコーマート店頭にて、Secomaのたまご空容器パックのリサイクル回収を行っています。

たまご<10個入>空容器パック30枚分を店頭にお持ちいただいたお客様にBOXティッシュ1箱をお渡ししています。回収したたまごパックは、リサイクル業者に資源として渡しています。

**セイコーマートのリサイクル**

**セイコーマートで  
紙パック・たまごパックをリサイクル**

**Secoma 対象商品の10紙パック20枚分または、  
たまご(10個入)空容器パック30枚で  
リサイクルBOXティッシュ1箱と交換いたします。**

**①** **Secoma 10紙パック20枚分**  
牛乳・100%ジュースなど  
※500mlパックは2枚で1パック1枚分に換算いたします。  
※サロベツ牛乳は除く。 ※パックを水ですすぎ、切り開いて乾かしてください。

**②** **Secoma 空容器パック30枚分**  
たまご(10個入)  
※6個入りパックは2枚、4個入りパックは3枚で、10個入りパック1枚分に換算いたします。

**①または②がたまったら! お近くのセイコーマートにお持ちください。  
BOXティッシュ1箱と交換します。**  
リサイクルに、ぜひご協力ください!

関連 URL: [https://www.seicomart.co.jp/service/service03\\_eco.html](https://www.seicomart.co.jp/service/service03_eco.html)



2018年11月20日

## 「プラスチック資源循環アクション宣言」 ～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

ワタミ株式会社

ワタミグループは、プラスチックが、海洋ごみ問題をはじめ環境中に放出されて大きな影響を与えていることを踏まえ、今後未来に向けて、ごみとして環境中に後出されることなく、資源として適切に循環されていくよう、

1. プラスチック製品の段階的使用の低減（リデュース）
2. 積極的な再使用（リユース）と再生利用（リサイクル）
3. 排出者責任の原則に基づく分別の徹底と適正処理の遵守  
に取り組んで参ります。

### 具体的な行動

- 1-① TGIフライデーズ（国内14店舗展開）では、紙製のストローを導入することを決定いたしました（2019年1月より）。また、その他の店舗（国内460店舗展開）では、生分解性のものなどへの切り替えができないか検討しています。
- 1-② 店舗で使用している調味料容器や持ち帰り用容器や、お弁当の宅配事業で使用している弁当容器において環境に配慮した容器の導入を検討しています。
- 2-① 店舗、営業所、セントラルキッチンで使用している洗剤容器を詰め替えするなどしてリユースできないか検討しています。
- 3-① 分別表を活用するなど、従業員の環境意識と分別精度を高めることに努めていきます。
- 3-② 資源として活用できるものはリサイクルを前提とした適正な処理フローを構築していきます。

以上

連絡先：ワタミ株式会社  
担当部署：広報部  
電話番号：03-5737-2784

「プラスチック資源循環アクション宣言」  
食品包装におけるプラスチック使用量の減量化に向けた取り組み

株式会社 悠心

株式会社悠心は、海洋に漂うプラスチックごみが新たな環境問題とされているなか、プラスチックの使用量を減らすことが地球環境問題の対応策の一つになると考え、

1. プラスチック減量化を可能にした容器の開発
2. プラスチック包装袋のシール幅を狭くしプラスチック減量化を図る液体充填包装機の開発を通して「減プラスチック」に取り組んでまいります。

【プラスチック減量化の実現についての具体的なアクション】

1. プラスチック減量化を可能にした容器の開発

～ P I D鮮度保持高機能容器の飲料容器への利用に向けた開発 ～

弊社では、開封後も密封状態を保つことで中身の鮮度を長期間保持する容器としてP I D容器（Pouch in Dispenser）を開発いたし、9年間近く市場に送り出しています。

このP I D容器は、開封後の鮮度保持能力により調味料等の容器開発に新たな方向性を見出しただけでなく、大幅なプラスチックの減量化に成功したことも大きな特徴の一つになっています。

現在、飲料用として開発中のP I D容器「C Tカートン」においては、900ml用のサイズの場合プラスチック使用量はわずか12g程度で、一般的な飲料用900ml ペットボトル（重量約35g）に比べ、約1/3に減量化が可能になり、従来の調味料容器の減量化に比べさらにプラスチックの減量化に貢献できると考えております。

また、開封後も密封状態を保つP I D容器は、中身の品質を長期に渡り保持することができ、他の飲料容器よりも味や香り等といった品質の劣化を抑えることに優れ、食品残渣の廃棄量減少へつながり、結果的にプラスチックの廃棄量減少に結び付くことになるため、多くの食品や工業製品等で利用できるよう開発を継続してまいります。

2. プラスチック包装袋のシール幅を狭くしプラスチック減量化を図る液体充填包装機の開発

弊社では、液体粘体用充填包装機の開発において、固形物を含んだ液体や高粘度の内容物の液中シールの実現等を進めるなか、プラスチック袋の封止部となるヒートシール部（四角形の袋の4辺の内2辺の部分）の幅を従来品に対し約1/2に狭くできる技術を開発しました。

従来、包装袋のシール部は、袋の大きさに関係せずシール部が8mm～10mm程度処理されていること大半でしたが、弊社のヒートシール技術とカット技術により、シール幅を4mm～5mm程度にすることが可能になりました。

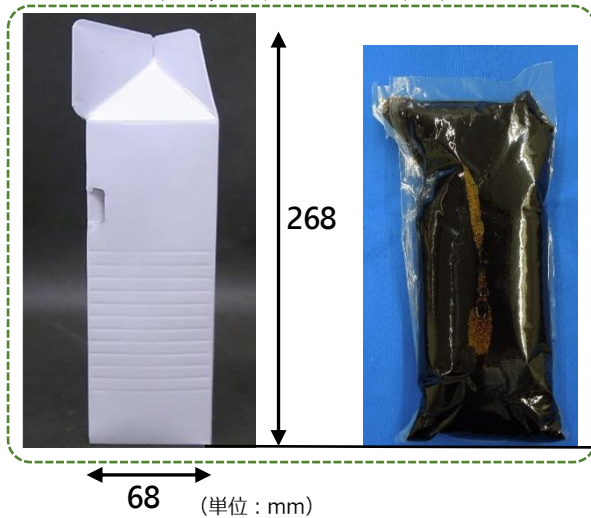
今後は、この技術を搭載した充填包装機をご利用いただくことで、従来の食品などの生産量が変わらなくても、ご利用される企業が、その商品をお買い求めになる消費者の皆様がプラスチックの減量化に貢献していただけるよう開発を進めてまいります。

連絡先 : 株式会社 悠心  
担当部署 : 東京支店  
電話番号 : 03-6228-6408

1. プラスチック減量化を可能にした容器の開発

＜PID容器 「CTカートン」 900ml＞

(外装容器 + 内袋)

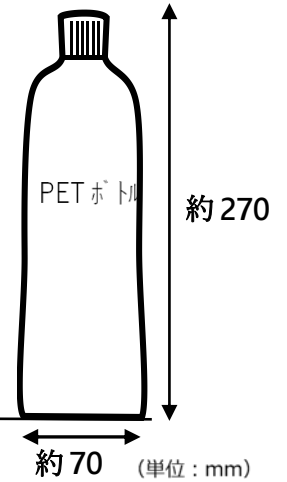


- ・外装容器のプラスチック使用量：約 4.5g
- ・内袋のプラスチック使用量：約 7.5g

(抽出)



＜ペットボトル 900ml＞



- ・ペットボトル  
プラスチック使用量：30～45g 程度

使用プラスチックの比較

「CTカートン」 900ml	プラスチック 約 12g
ペットボトル 900ml	プラスチック 約 35g

\* 「CTカートン」の外装容器の紙使用量は約 39g (古紙約 60%を含む) になります。

2. プラスチック包装袋のシール幅を狭くしプラスチック減量化を図る液体充填包装機の開発  
一般的な横シール部の袋 幅を狭くした横シール部の袋

8mm～ 10mm ⇒ 4mm

袋の長袋の長さが 100mm の袋の場合、約 12.0% の減量が可能になります。

